弓削通信 フェニックス

2014.10.15 №53（通巻180）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

おたよりから

皆さんからいただいたお便りを冊子にまとめました。慎重にお便りを選んでのせればよいのですが、手あたり次第なのでまとまりがありません。でもそれらを読むことで、風化を忘れさせるかもしれないと思いお送りします。

島の道鏡をなんとかしたいですね。郷土誌的なものにのこっていないでしょうかね。

（宮城県・本田義幾　道鏡を守る会）

ふるさと納税の昔のかたち

香川県の大久保諶之丞のこと

２０１４年９月１０日の朝日新聞３３面に「先見の地方政治家・諶之丞」という記事がありました。記事の内容は、香川県三豊郡財田（さいた）町出身の政治家であり事業家でもあった大久保諶之丞（じんのじょう・１８４９～９１・嘉永２年～明治２４年）が、徳島県の吉野川から地下水路を引いて香川県まで水をひく「香川用水」構想を明治初期に提唱し、彼の構想は後に実現した、というような話しでした。（諶之状は４２歳のとき香川県議会で演説中に倒れ死亡）

別に美談に仕立てるつもりはありませんが諶之丞は私財をなげうって人々の暮らしを支える社会的資本整備（四国新道、讃岐鉄道、香川用水、瀬戸大橋）を提唱し、四国新道、讃岐鉄道、香川用水を実行しました。瀬戸大橋も死後９９年後に完成しました。死後残された家族は、大地主だった父祖から受け継いだ財産は、殆ど工事代金の穴埋めに使われていたため三度の食事さえままならなかったそうです。

号泣県議のやりきれなさ

その諶之状の姿は、小さな利権に群がる昨今の政治家とは比ぶべくもありません。

今は選挙区における政治家の寄付行為は、どういう形であれ法で禁じられていますが、自分にむけてなされる寄付について違法な処理をしてマスコミを賑わす者は後をたちません。また架空の政務調査費を突かれ、号泣した県議の記憶も新しいです。

諶之丞には爪の垢が少なかったのか、若死にしたせいなのかわかりませんが、彼のような気宇壮大で、かつ清廉な政治家は絶滅危惧種のようです。

昔の人の偉さを考える

愛郷 愛国と よりよき未来を夢見る力

教育は人づくり　地域の偉人をお手本に

なぜ忘れられてゆくのか

これも先月の弓削通信フェニックス１７９号に少し書きましたが、弓削島生まれで弓削海員学校（現国立弓削商船高専の前身）の創設に尽力した田坂初太郎の生年は１８５１年（嘉永４）。まさに諶之状と同世代人です。

その海員学校の創設に最も尽力したのが初代弓削村長・中村晴二郎だとも書きました。しかし、実はその晴二郎のことは町の小学校３、４年生用社会の副読本には、人物伝としては掲載されていないのです。

江戸から明治、大正、昭和にかけて、この地方で生まれ、様々な分野で気を吐いた人々は、まさに日本の近代史を生きてきました。二度の世界大戦も経験し一通りの発展も遂げた我が国にあっては、これからの人口減時代、新たな視点から国、地方の未来を切り開いてゆかねばなりません。そうしたとき故郷の生んだ偉人とも呼べる人々のしてきたことを改めて見直し、掘り起こす。今と後の世に伝える。そういう作業に情熱を注ぐことは、とても大切なことのように考えます。

明治新政府は遅れた海運事情を急速に改善すべく、海運会社の育成と船の運行に必要な人材の育成を急いだ。明治八年「三菱商船学校」設立。帆船を校舎兼練習船とし、生徒を船内に起居させ船員教育を実施した。海員教育百十年記念切手。

町を救う仕掛けは教育だ

何度も言うようですが、後世に残る大仕事は、決してひとりの力で成し遂げられたものではありません。使命感と情熱。共感して動く仲間、師ほか、一口にいえば明治の青年には、どんな片田舎にいても、頭には雄飛の気概、自分たちの力で世の中を進めて行かねば、という気概が満ちていたように思えてなりません。なぜそういう風になれたのか。

先にふれた旧弓削町時代に教育委員会の手で編纂された社会科副読本には、子の敬久（たかひさ）が晴二郎を教えたとされる山口県から来た朱子学者・原太岳（不明～一八四九。嘉永２）という学者の伝記もあります。

晴二郎を教えた太岳の子敬久は、三代目村長・松本清一郎、五代村長・宮原達太郎などその頃弓削村の助役や収入役になったすぐれた人たちも教えたそうです。

歴史から忘れられてゆく人物にはどういう理由があるのかは定かではないですが、教育とは何のためにあるのかを静かに考えてみたいところです。

ストーリー・オブ・チェアーズ展

H26. 9.13［土］▶ 11.9［日］

椅子は無くてはならない家具。本展は20世紀初頭から現在までに生まれた多様な椅子の一部を紹介。

尾道市立美術館
〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内
Tel.0848-23-2281 Fax.0848-20-1682

やよみ亭　映画研究会

日時 10月15日（水）19:00　無料

「アンコール」 2012年　イギリス映画

老人になった「怒れる若者たち」を描く反骨のドラマ。病身の妻の代わりに合唱団に参加した気難しい初老の男が、さまざまな出来事を通して人生の新たなスタートを切る姿を映し出す。

監督：ポール・アンドリュー・ウイリアムズ
主演：テレンス・スタンプ、ジェマ・アンタートン

きどぐち 五三

青木喜代子

富岡製糸工場が世界遺産に登録された。カイコを育て一本の糸をとるまで、どれだけの人の手がかかっているか、今更ながら驚く。

祖母は若くして未亡人になり三人の子を育てた。洗濯機も炊飯器も、もちろん母の手当もない時代。そんな祖母の着物を何枚かもらった。染め替え、仕立て直しをくり返し、明治、大正昭和、平成を生きた着物をどうにかしたいと思い、とりあえずほどいて洗った。さてどうしたものか・・・。

以前、母がシャツを裂いて足ふきマットを編んでいたのを思いだした。裂いた布を棒針で編むと、絹のベストの出来上がり。出たとこ勝負のB型は、体にあてて、とっても適当に・・・でも着るといい出来。（おばあちゃん、ほめて！、私はやったよ）と心の中で叫んだ。

気をよくした私は父の大島、祖母の紬の着物であれこれ創って楽しんでいる。

衣替えの頃になると、家事評論家が「あのね、一シーズン袖を通さなかった服は思いきって捨てましょう」って。でもね、作った人のことを思うと、なかなか捨てられないのよね～。

私は一本の糸も作り出せない。ならば誰かの作ったものを最期まで大切に、と思う。ほどいた布を手にリフォーム上手のヨシコさんちに通う。アイデアをもらい、世界にひとつの服ができる。たまらなく幸せである。薪ストーブに火を入れたら、その前でチクチク縫うぞ。そう、手縫いです。究極のエコだわ。

弓削通信 フェニックス

2014.10.15 №53（通巻180）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎顕彰準備会

（毎月25日13時～。生名中央公民館2Fで開催）

〈6〉

日本海員組合（現・全日本海員組合の前身）をつくった濱田國太郎は、我が町の旧・生名村の出身です。

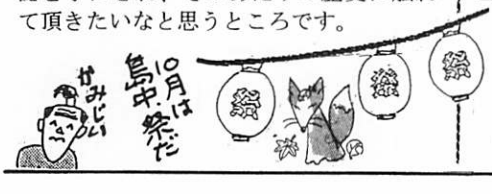
瀬戸内海の島は、架橋で本土とつながらない限り離島扱いです。離島であれば国からの離島に関する補助金等が活用でき、離島振興法が出来たのち島の振興は、いわゆる「本土並み」を合い言葉に様々な施策が行われてきました。ところがそうこうしているうちにどんどん進行した少子化、高齢化のまえに、今は為す術も見いだせていません。

それはともかくとして、その合併を機に編纂された「生名村誌」は村の歴史の集大成です。歴史は語り伝えられたもの、書き残されたもの等いろいろな形をとって後世に伝えられるものですが、やはり書き残されたものが資料としては一等上をゆくものであろうと考えます。

日本海員組合をつくった濱田國太郎については、その生名村誌にも特集ページが建てられていて、人物、事績等が書き残されています。ところが、さてどれだけ島の人々にそれが伝わっているのでしょうか。というのも、寡聞ですが島の30代の人などは、國太郎の名すら知らないというし、名は聞いたことがあっても島とどのような係わりがあるのかは知らぬ、とか、中々に寂しい現状のように思われるからです。

國太郎の銅像があった厳島では最近、折につけ生名島、弓削島の有志が草刈り等を実施しています。村誌には銅像建立当時のことも記されていて、当時飛ぶ鳥を落とす勢いだった國太郎の銅像建立には「海員組合関係者を中心に、ひろく海運関係者の基金により昭和10年に竣工した」「地域の人々も協力、地域を挙げての祝福云々」とあります。

生名村誌は発行時、希望者には頒布されたそうですが、残部もかなりあると聞きます。願わくば多くの方々が、生名村誌を手にされ、そのあたりの歴史に触れて頂きたいなと思うところです。



議員活動録

（21）議会議員　平山和昭

写真説明：平成26年9月29日、「国際ヨットラリー大会」の参加艇13隻が上島町海の駅に入港。10月の1日朝、次の停泊地新居浜へ向かって出港した。出航前の打ち合わせ風景。

九月議会・決算認定にみる問題点

9月議会は昨年度の町財政決算認定です。決算ですので当該年度の予算（当初・補正）が適正に執行されたかどうかが審議されるわけです。

平成25年度の我が町の全会計決算総額はざっと100億円余。うち一般会計歳入・歳出決算合計それぞれ75億円規模です。会計監査の最終審査時（8月）における予算執行率は87%となっています。それ以降も数字は動くわけですので議会での決算認定時には実質執行率は約95%となっています。

町長は、監査委員の意見を真摯に受け止めるべきではないか

監査意見書

決算には町監査委員（2名。うち1名は議会派遣議員）による審査意見書というものが提示されます。いわば監査委員による町財政運営に対する意見とでもいいましょうか。それによると、意見はおおよそ次のようなものでした。

①25年度は諸税の徴収率は約91%で県下でもトップクラスとされている。一方で、国保税は広域化移管が検討されているので収入未済の整理が必要であること。

②各会計における不能欠損の重複や未処理事案がある。統括責任者を任命するか部課長による検討委員会の設置の必要があること。

③決算年度と旧年度に関する繰り越し未済額の調停日を統一する必要があること。

④行政ガイドパンフレットの作成が望まれること。

（筆者注）このことは高齢化の進む町にあって、在住高齢者本人に代わり町外者が手続代行する場合にそなえ、町全体の行政サービスガイドブックを作って便宜をはかる必要があるということです。同じサービスは移住者に対しても必要で、役場の窓口でそれをもらえば、どこでどういう手続きをすればよいかわかる。

⑤基金の活用による佐島宮浦遺跡の保存整備の検討をすべき。

（筆者注）このことは、宮浦遺跡の学術的文化遺跡を保存するため、土地開発基金やふるさと整備基金等を活用し遺跡周辺の土地を取得することで町の裁量で観光資源としての活用も容易にするためです。

実行されぬのなら

値打ちが出ない監査意見書

行政はこの監査の意見を承るだけでは意味がない。実行することで、この町の運営は透明性の高い上質のものになっていくはずです。

筆者は、この監査意見書の扱いに関し理事者に次のよう糺しました。

「監査意見書を実行しないでは監査委員も甲斐がないだろう。昨年度（24年）にも監査意見書が付せられていたが実行されていないものがある。そのひとつに生名公営渡船の事務職配備に関し、職員を配置して金銭管理等を行うと共に委託業者管理監督を検討していただきたいというのがある。何故実行に移せないのか」

町長の答弁は、渡船の金銭管理は現行で問題はなく、もし職員1名を派遣すると1千万円の人件費がかかる。さして用もない職員を配置するのはいかがかと云々というものでした。

かねてより厳しい利用者の眼

生名渡船の運賃収入は年間約2億円余りあり、その日々の公金管理を委託業者に丸投げでいいのか、という指摘は根強くあります。職員派遣が困難だというなら、いっそ同施設の大きな空き部屋に、担当課がまるごと引っ越す方法もある。そういう指摘も聞きます。

町長はこの町の財政は健全だと、財務指標の一部の数字をもって事あるごとに胸を張っているようですが、先月号にも書いたように、それは県内の類似自治体と比べてのもので、同じ財務指標の財政力指数や、経常収支比率、実質収支比率などは、とても威張れる実態ではないのでは？　しつこいようですが、そんなことよりも住民の満足度が先ではないでしょうか。

★出よう会

10月14日（火）やよみ亭
21日（火）土生集会所
11月11日（火）やよみ亭
18日（火）土生集会所

午後1時から3時頃まで各会場

・活動趣旨：家に籠もらない為の地区のお年寄り達の交流会です。お茶や歌唱、手遊び、簡単な工作などをします。お気軽にご参加下さい。
・実施場所：第2火曜日（やよみ亭）
第3火曜日（土生集会所）

訪れるふるさとネット
（0897-72-9188）